

位置ベクトル

位置を表すベクトルを位置ベクトルという。座標幾何学では、位置を表す実数の組 (x, y) を座標と書いた。この一般化である。実際、 $O(0, 0)$, $P(x_1, y_1)$ としたとき、 P の位置ベクトル \vec{p} を成分で表せば、 $\vec{p} = (x_1, y_1)$ である。位置ベクトルというのが何であるか、しっかり説明できる必要はないが、問題の中で意識することは大切である。

平面に2点 $A(\vec{a})$, $B(\vec{b})$ がある。この \vec{a} , \vec{b} は座標を一般化した位置ベクトルである。すなわち、基点となる点 O があって、 $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$ である。この基点はどこでもよく、ひょっとしたら R かもしれない。そのときは $\vec{a} = \vec{RA}$, $\vec{b} = \vec{RB}$ である。

$\vec{OA} + \vec{AB} = \vec{OB}$ から、 $\vec{AB} = \vec{OB} - \vec{OA} \cdots \textcircled{1}$, すなわち、 $\vec{AB} = \vec{b} - \vec{a}$ である。これを私は始点変更公式と名づけている。

$\vec{RA} + \vec{AB} = \vec{RB}$ から、 $\vec{AB} = \vec{RB} - \vec{RA} \cdots \textcircled{2}$ 。 O, R に相当する点は何でもよい。 \vec{AB} はどんな始点にでも変更できる。そして、大切なことは $\textcircled{1}$ にしても $\textcircled{2}$ にしても、 \vec{AB} は B の位置ベクトルから A の位置ベクトルを引いているとみることができるとのである(ガリレイの相対性原理)。これが位置ベクトルの考えでもっとも本質的なことである。

\vec{AB} と \vec{d} が平行ならば、 $\vec{AB} = k\vec{d}$ となる実数 k が一意に存在し、逆も成り立つ。これはベクトルの平行条件である。

3点 A, B, P が同一直線上にあるならば、 $\vec{AP} = k\vec{AB}$ となる実数 k が一意に存在し、逆も成り立つ。この2つはベクトルが幾何学の問題を解く上で、役立つ道具であることを示す重要な事柄のひとつである。

$\vec{AP} = t\vec{AB}$ としよう。ベクトルの実数倍の定義により、 $AP : AB = |t| : 1$, $AP : PB = |t| : |1 - t|$ だから、 P は線分 AB を $t : (1 - t)$ に分ける点である。

始点変更公式により、 $\vec{p} = (1 - t)\vec{a} + t\vec{b}$ であるが、これはまさに、分点公式と一致している。

基底 \vec{a}, \vec{b} を与えたとき、平面上のベクトル \vec{p} は、分解の考えを使って、 $\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b}$ となる実数の組 (s, t) が一意に存在する。

まとめると、

1. P が直線 AB 上にあること すなわち3点 A, B, P が一直線上にあること
2. $\vec{AP} = t\vec{AB}$ となる t が存在すること
3. P は線分 AB を $t : (1 - t)$ に分ける点であること
4. $\vec{p} = (1 - t)\vec{a} + t\vec{b}$ (2点 A, B を通る直線のベクトル方程式)
5. $\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b}$ と表すとき、 $s + t = 1$

これらはすべて同値である。

例題

三角形 ABC において、辺 BC を 2:1 に外分する点を P, 辺 AB を 1:2 に内分する点を Q, 辺 CA の中点を R とするとき、3 点 P, Q, R は一直線上にある。

なんとなれば、

$$\overrightarrow{AP} = -\overrightarrow{AB} + 2\overrightarrow{AC}$$

(分点公式だとしてもよいし、 $\overrightarrow{BP} = 2\overrightarrow{BC}$ と始点変更公式から導いたとしてもよい)

$$\overrightarrow{RQ} = \overrightarrow{AQ} - \overrightarrow{AR} = \frac{1}{3}\overrightarrow{AB} - \frac{1}{2}\overrightarrow{AC}$$

$$\overrightarrow{QP} = \overrightarrow{AP} - \overrightarrow{AQ} = (-\overrightarrow{AB} + 2\overrightarrow{AC}) - \frac{1}{3}\overrightarrow{AB} = -\frac{4}{3}\overrightarrow{AB} + 2\overrightarrow{AC}$$

よって、 $-4\overrightarrow{RQ} = \overrightarrow{QP}$ すなわち P, Q, R は一直線上にある。

また、 $RQ:RP=1:4$ である。

上の証明は P, Q, R の位置ベクトルの基点を A としているが、基点を B とした説明を書いてみる。

$$\overrightarrow{RQ} = \overrightarrow{BQ} - \overrightarrow{BR} = \frac{2}{3}\overrightarrow{BA} - (\frac{1}{2}\overrightarrow{BC} + \frac{1}{2}\overrightarrow{BA}) = \frac{1}{6}\overrightarrow{BA} - \frac{1}{2}\overrightarrow{BC}$$

$$\overrightarrow{QP} = \overrightarrow{BP} - \overrightarrow{BQ} = -\frac{2}{3}\overrightarrow{BA} + 2\overrightarrow{BC}$$

よって、 $-4\overrightarrow{RQ} = \overrightarrow{QP}$ すなわち P, Q, R は一直線上にある。

\overrightarrow{RQ} と \overrightarrow{QP} を比べるのだという方向性さえ間違わなければなんとかなる。

例題

三角形 ABC において、辺 AB を 1:2 に内分する点を D, 辺 AC を 3:1 に内分する点を E とする。また、2 つの線分 CD と BE の交点を P とし、直線 AP と辺 BC の交点を Q とする。

このとき、

$$C, D, P \text{ は同一直線上にあるから } \overrightarrow{CP} = s\overrightarrow{CD}$$

$$B, E, P \text{ は同一直線上にあるから } \overrightarrow{BP} = t\overrightarrow{BE}$$

$$\overrightarrow{AP} = (1-s)\overrightarrow{AC} + s\overrightarrow{AD} = \frac{1}{3}s\overrightarrow{AB} + (1-s)\overrightarrow{AC}$$

$$\overrightarrow{AP} = (1-t)\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AE} = (1-t)\overrightarrow{AB} + \frac{3}{4}t\overrightarrow{AC}$$

A, B, C は、どの 2 点も同一でなくかつ 3 点は同一直線上にないから、 $\overrightarrow{AB}, \overrightarrow{AC}$ での表し方は一意である。

$$\frac{1}{3}s = 1-t \text{ かつ } 1-s = \frac{3}{4}t \text{ 解いて } s = \frac{1}{3}, t = \frac{8}{9}$$

$$\text{すなわち、} BP:PE=8:1, CP:PD=1:2, \overrightarrow{AP} = \frac{1}{9}\overrightarrow{AB} + \frac{2}{3}\overrightarrow{AC}$$

$$\text{また、A, P, Q は同一直線上にあるから、} \overrightarrow{AQ} = k\overrightarrow{AP} \text{ すなわち、} \overrightarrow{AQ} = \frac{1}{9}k\overrightarrow{AB} + \frac{2}{3}k\overrightarrow{AC}$$

$$Q \text{ は直線 BC 上の点なので、} \frac{1}{9}k + \frac{2}{3}k = 1 \text{ 解いて } k = \frac{9}{7} \text{ ゆえに、} AP:PQ=7:2$$